

【知事からの説明】

新田知事より 資料（別添）により富山県成長戦略会議「中間とりまとめ」について説明

【グループ発表①～④】

①私たちのチームはスタートアップ新産業というテーマで集まったチームです。セリオにインキュベーション施設を作ろうというアイデアが一番多く票が集まりました。クリエイターが高岡にすごく多いそうなんですけれども、集える場所がないってことで困っていらっしやっただので、クリエイターが集える場所があったらいいよね。セリオがあればもっといいんじゃないかっていうことでした。

みんなが集える場所ができたら高岡の街を一緒にみんな歩いて街歩きしたりとかお散歩したりできたらもっと高岡がイイ！！的になるんじゃないかなと思っております。

高岡の芸文キャンパスがあったり、隣の射水市には県立大学があったり、専門学校があったり。高岡はデジタル色が強いし、若手の人材育成に向いてる場所んじゃないかなと。僕自身も学生たちと関わっててすごく思ってます。セリオがいいのかはちょっとわかんないですけども、そのような場所が中心市街地にあればいいかなと。昔はすごい人がいっぱいいたみたいな話を聞いた時に、地元の大きな企業さんが飲みに出ていた話を聞く中で、追随するような新産業っていうのを中心市街地から盛り上げていければと考えております。

知事：居心地が良いたまり場って大切なので、高岡でもインキュベーターが集まれるような場所も必要だと思います。以前COMSYOKUがありましたけれども、本当にそこには移住の人も面白い人もたくさんいたし、いろんなクリエイターの方もおられたし。ぜひ、また作っていただきたいですね。役所などを当てにせずに、みんなで作ってくださいよ！富山市ではインキュベーション施設ができてきています。高岡も富山県の二つのエンジンの一つとして、そんな場所も大切だと思います。

市長：高岡の抱える課題であるセリオというフレーズも触れていただきましてありがとうございます。インキュベーション施設というよりもクリエイターがたくさんおられる、そしてまた若い世代が今たくさんいてくれるっていうのは高岡のこれからの未来の強味だと思っています。また、セリオという中心市街地に置き換えたときに、中心市街地に若い人たちが集まれる場所、そこで新しいビジネスや新しい可能性が生まれるということは高岡に必ず必要になってきますし、実は次年度中心市街地で新たに挑戦させていただこうとしていることもそれに近いことがあります。またみなさんの意見をいただきながらやっていきたいと思しますので、ぜひ活用出来る場所を一緒につくっていききたいと思っております。

②幸せ人口1000万というテーマで集まりました。票が集まったのは3つに同率一位ということで。

ひとつめは高岡市YouTubeプレイリスト。これは高岡市とYouTubeで調べるといろんな動画が出てくるんですけど良い動画もいっぱいあるが、関係ない動画も出てきたりする。そんな中で高岡市が監修して高岡市に関係する良い動画を集めて高岡市がプレイリストをつくっちゃ

う。企業案件として絡んでいっちゃうくらいのプレイリストをつくってくれると何が変わってくるかという、価値観というのはメディアが作っているんじゃないかということで、テレビだとかいろんなSNSだとかメディアが価値観をつくるためにまずものをつくってくれと。価値観をつくるための良い動画をプレイリストでやってくれると非常に助かるな、面白いなど。

ふたつめはスタートアップ。スタートアップする人材が県外にでて行ってそこで起業しちゃうとおっしゃっていましたが、スタートアップ出て行っていいよ！という。県外の若い人たち、能力のある人たちが県内に学びに来てくれる流れをつくりつつ、出て行っていいよと、出ていくときにも助成するよというぐらいのことをして、入ってくる出ていくをどんどん活性化していく。気に入ってくれたら高岡でスタートアップしてくれたらいいよというようなものができるんじゃないか。

あとは、高齢者向けタブレット。フリーター、時間がある人が高齢者の為にアッシーやりますよと。タブレットがなぜかというのは、画面が大きいほうがわかりやすいので。既存で多分どこかの地域では高齢者にスマートフォンの練習を行う教室があると思うんですけど、ではなく、そもそももっと単純な、お腹すいた、ごはん、とちょっと単純な注文までいってしまっただけ届けてくれるとか。それぐらい簡素化されたフォーマットみたいなものをいっそのこと作ってくれと。高齢者の方が一番幸せ人口の中でも幸せにしてあげなきゃいけないと思います。

知事：1番目のアイディアはすぐできそうなイメージですよ。今どう発信しているか、YouTubeのリストにどうあがっているか、ググって最初に出てくるか、それが勝負なので。オフィシャル高岡YouTubeプレイリストがあるというのはとてもいい発信だと思います。この幸せな高岡の暮らしをぜひYouTubeも含めてインスタでもいろんなものを使って大いにひとりひとりが発信をしていただきたい。それを若い人だけでなく、タブレットを習っていただいてご年配の方も発信してもらうことが大切だと思います。高齢者というとすぐ我々は福祉だとか考えちゃうのですが、確かに本当に一番幸せになっていただきたい方ということ頭をガツンとやられた気がします。そのために例えば公助・共助・自助・互助といいますけれども、免許証を返納された方の足になるというそんな想いはみなさんあると思うんですけども、うまく仕組みにして場合によってはデジタルにしてシステムをつくる。高岡でも十分にできると思います。

市長：1番はやらせていただきます。せつかくのみなさんからいただいたアイディアです。すぐに取り掛からせていただきます。あとについては、やさしいまち高岡を目指している上で高齢者のみなさまが住みやすいまちをつくっていかねばならない。いずれ全員が必ず高齢者になります。今から始めて次の世代にも優しい街を残していくってことはやっていかねばいけないと思いますし、時間のある方が高齢者に目を向けて若い世代が支え合うまち、高齢者を守るうえで絶対に大事だと思いますので一緒になってまちをつくっていききたいなと思いました。

③チームウェルビーイングMAXです。幸せについて話し合いました。一番ぼんやりしたテーマで話さなくてはならないんですけども、ウェルビーイングという言葉聞き始めて思うのは、これってお金に例えると月30万円の収入の人と月100万円の人とどっちが幸せかって

言ったらお金なんていくらあっても足りないじゃないですか。大事なのって、お金も幸せもどれくらいあれば幸せなのかちゃんと決めなきゃ、上も底も無いまんまなのでそれをまず考えられるような環境をつくるのが先なんかなと思いました。僕とか大阪出身が二人いるんですけど、僕はベッドタウンで暮らしたもので地域の催しは古紙回収くらいしか知らないで育ったんですけど、こっちに来てお祭りとか神輿を担いでいるのを見てものすごく活性化してると思ったんですよ。メディアとかは僕とかがいろんな活動をしていると「羽田さんにはぎやかなまちで育ったから、衰退していく高岡に一役かいたいですよね」みたいな。あほかと思って。こっちのほうがよっぽど人と人が繋がっていて。どっちかっていうと枚方は住む町だったんですよ。でもこっちは人が暮らしているというような。十分それでも幸せを感じられるんじゃないかなと思っていて。結果的には主観的な幸福度も大切なんですけども言われてはじめて気づく自分の幸せを大事にしていてもいいんじゃないかなと。触れちゃいけないことなんかなって思ったんです。あの人を幸せかどうかなんて。でも、あなたは幸せだよって言われたとき、自分って恵まれていたんだと気づかせていくことをもと積極的にしていく。人に対してオープンマインドであり続けるというのが、高岡で保守的という言葉も出たんですけども、市民県民が自分の口で保守的と言っているからダメだと思っている。「富山県には何もないよねってよく言われますが」ってそれ言ってるのがもうおかしいじゃないですか。例えば条例だしたらいいんじゃないですか。客観的に人のことを幸せだと褒められる条例を出す！みたいな。そんなことでもいいんじゃないかなと思いました。

知事：移住者の視点、よそ者の視点、高岡の方は当たり前と思っていることはすごいことなんだよ、素敵なことなんだよ、と言われてみてわかることはたくさんあると思います。そういう視点も大切にしていきたいと思います。それと自己紹介の時の「ウェルビってる」というワード、いいですね。ウェルビーイングを政策の指標にするからにはどう測るかって我々は頭を悩ませているのですけれども。条例をつくっていただいて大いに活用していただく、角田市長よろしく願いいたします。

市長：地域の祭りは地元の自治体が応援していかなくちゃいけないところだと思っています。このコロナで2年間地域のイベントや祭りができていないのでこれからアフターコロナに向けて地域のイベントを絶やすことなく守っていくことも行政の仕事だと改めて感じました。条例ということよりもまず、皆さんの意識を変えていくことが大事なんだなと思いました。人がどれだけ幸せかということと言いづらいつも部分ではあるかと思いますが、みなさんが互いに互いを幸せだと言えることもウェルビーイングに必ず繋がっていくと思いますし、特に高岡には「旅の人」というちょっと嫌な言葉があります。外から来た人に「あんた旅の人やね」と言ってしまう。僕はこれを変えたくて「ようこそ旅の人、ぜひ高岡のダメなところを教えてください」と旅の人という言葉を上位の言葉にできるように、高岡市民のみなさんの意識を変えていきたいなと思っております。素晴らしいアイデアをありがとうございました。

④富山県の今後の観光の在り方について議論してみました。まずは、富山県にはいろんな観光資源があります。高岡のように文化的遺産がたくさんある。県内全体を見回しても自然に恵まれている。観光資源としては非常に豊かなものがあるんですけども、情報を発信するという面ではやはりまだ十分ではないと思います。そこを変えていかなければならない。富

山県の人は保守的なところが多分にあるというところを払拭していく。新しい観光資源を活かしていくにはどうしていけばいいのかというところで、県内のいろんな場所で「市（いち）」を開くと。富山を訪れるとどこかで市が開かれている。お祭りが開かれている。そういうものを情報発信。来てみてわかるのではなく、こういうものが常にあるのだと県の広報でもいいですからホームページの中で載せていただきたい。

高岡駅と新高岡駅が離れてしまっているわけです。円滑な繋がりができないかということで、ロープウェイで結んでみたらどうかと。お金がかかりますけれども。それくらいすれば人が来てくれると思います。施設や行事を活性化させるということと同時に、根本的な問題として県内の人たち、高岡の人たちの発想を変えていかなければならない。外国の人を活用して発想の転換を進めていきたい。観光資源の国際化ということで、ここに是非とも大学関係で留学生がたくさん来ております。そういう人たちを活用して富山県の観光資源をうまくPRする。外国人の方の発想をうまく活用することが必要ではないかなと思います。

知事：いつでも「市（いち）」があるというのはとても良い発想だと思いました。私も旅行に行くとそのまちの市場に行くことが多いです。そこには人の暮らしがあり、このまちの人は何を買って何を食べるのか。市に行くとも一目瞭然でわかるのですよね。もちろん勝興寺を巡る旅もいいんです。名所を巡る旅と一緒に“暮らすように旅をする”。市というのは切っても切り離せないものだと思います。そのまちにはそのまちの市があり、人の暮らしが分かる。魅力あるコンテンツになると思います。プラスで歴史文化遺産を組み合わせたら、高岡の観光MAXになると思って聞いていました。それから外国人の力。よく日本政府を動かすには外圧が一番だと言われますが、外国人の力を使って物事を変える推進力にするというのもいい意味で使っていけばいいと思います。今富山県には19,000人の登録されている外国人の方がおられます。みなさん向学心に燃える方々です。そんな人たちのスキルやアイデアをまちの推進力にしていく。とても良い発想だと思いました。

市長：高岡駅新高岡駅間というところは高岡にとって大変重要になってくるエリアだと思っております。南部エリアという風によんでおりますが。この地域がどうやって利便性が高くなっていくか知事から絶大な支援をいただかないとなかなか難しいかもしれませんが、ひとつのアイデアとしてしっかりと受け止めさせていただきたいと思います。それから、いろんな市。高岡は昔加賀藩の台所と言われていました。最近では氷見ではブリ、新湊ではカニがある、高岡には何があるんだと言われてたら私はなんでもないと必ず答えるようにしています。それに見合ったまちに変えていかなければならないと思っていますし、高岡の市場のこともこれから考えていきながら、いつだれが来てもそこに行けばいろんなものがあって、いろんなことが楽しめる場所をご提案いただけたものと思っております。また外国のみなさんのお知恵を借りるということですが、高岡は3,500人強の外国の方が住んでおられます。大変さまざまなアイデアをお持ちで、私の市長選挙にも手伝いに来てくれるような前向きな外国籍の方がたくさんおられました。そういった方々と一緒にこの高岡に住んでよかったと、外国籍の方々にも思ってもらえるような多文化共生のまち高岡を目指していきたいなど改めて感じさせていただきました。

【振り返り】

参加者：新産業とかスタートアップという視点からお話をさせていただきまして、民間が主体的であるべき部分でもありますので、あんまり行政の方たちには期待をしないといったらあれですけど。僕らに対して賛同をいただければ、サポートをいただければという流れこそが健全だと思います。周りになにか新しいことをしたいという若い人は結構いるのでチームを組んでいろいろやっていけるような高岡にしていけたらなと考えております。

参加者：昔ウイングウイングで「ナンケソーレ」という月に一回高岡を元気にするプレゼン大会がありました。自分の価値観じゃなくていろんな人と交流する。当時僕も保育園の子どもを連れていろんな大人たちの姿を見せて子どもが成長していったらいいなと思っていたのですが。例えば獅子舞は多世代の関わることだと思うので、地域のもしかしたらうざったいと思われるようなコミュニケーションが問われるかもしれませんが、子どもからお年寄りまで一緒になって楽しめるまち高岡。歴史都市と名乗るならば獅子舞を絶やささないようないろんな工夫をしていく。多世代交流だったりいろんな職種交流だったり、今日現場をスタートにして多世代の方が集まれるような機会をつくってほしいなと思いました。

参加者：ウェルビーイングについて考えるチームだったのですごくぼんやりしてしまったんだけど、改めて客観性とか人から与えられて初めて気づく幸せの考え方をできたなと思いました。自分はそこまで思っていなくても他の人から見たら「あの人たち家族って幸せそうよね」とかあるじゃないですか。自分でも考えられるし、相手からも言ってもらえるようなオープンな関係をどうやったらつくっていけるのかなと考えられるきっかけを今日感じる事ができました。

参加者：ウェルビーイングという言葉に馴染みがなくて知らなかったんですけども、調べてみると「より幸せに」とか「真実の幸せとは」って出てきたんですけどもいまいちピンとこなくて。僕今フリーターですけど人生で一番幸せなので。よりって言われても、別により幸せにならなくても…今もうMAXなんで。でもそれは僕の価値観だけ。幸せにはいろんな価値観があって。こういう場にくることで手早くその価値観を知れるんじゃないかと思って今日参加しました。今日ここに来させていただいたことで、より「自分は幸せなんだな」と再確認させていただいたような気がします。明日からアクションをしていきたいこととして、こういう場に参加したんだよということを、みんなに自慢していきたいなと思います。知事や市長と会って話したよと自慢しにいて、みんなに気づきを与えていきたいなと思います。

参加者：幸せ人口の考え方について、富山県とか高岡市という一個の単位について何かを動かす適切な単位なのかと。なんのために区切られている単位？例えば家族っていうのは明確に血のつながっている単位やし。会社っていうのも単位やし。動きやすい単位ってあるじゃないですか。幸せ人口は関係する人たちなんで境目がめっちゃぼんやりしてるじゃないですか。でもその単位のくくりかたってすごく新しいし、こっからここは違う県やからと区切られるものでもないし。すごく面白い新しい単位やなと思ったんです。その幸せ人口1000万集まった人で何をしていくのかということが見えていたらなお良いなと思いました。

参加者：今日たのしい時間を過ごせたことがすごく幸せだと思います。真の幸せとは何かということをごいう場で考えてみて、自分のように子どもを持っているにも関わらずこんな夕方の時間にもなるのに出させてくれた家族に本当に感謝したいと。家族に恵まれた自分を褒めてあげたいと思いました。私は孫を持つ世代になってきているんですけど、若い人たちのこの力を上手に活かしていただける市や県であってほしいなと改めて思いました。嫁に来て高岡市民になりましたが、もともとは射水市民でしたが、そういうのに関わりなく子どもたち、親世代がもうちょっと幸せに生きやすくなれるようなご縁がつくっていただけたいなと思っています。

知事：このビジョンセッション、富山市はまちなかの隈研吾設計のピカピカのビル キラリのスペースを使いました。今日はこの勝興寺さん。ふるこはん。ごうごう建物がちゃんと残っている高岡の強さ、魅力だと思いました。一方で、デジタルクリエイターの方がたくさん育っているということでこれが掛け合わせっていくとMAXになっていくなと思ひます。高岡に期待をしております。

参加者：新産業スタートアップでお話しをさせていただいて、高岡にクリエイターさんが集まる場所とかみんなが集まる場所を作りたいなと話してひいて。私自身映像制作をしているんですけど、あまり高岡市とか富山県で映像制作をしている方とかクリエイティブな方との関わりが無ひ状態です。しかし、今オンラインを通じて全国のクリエイターさんとの繋がりはあるので、高岡市で私が刺激を与えられるようなことができたらいひなと思ひました。